

～男女共同参画社会に向けて～

ドゥマーン Demain

※Demainはフランス語で“明日”という意味です。



も く じ

- 男女共同参画センター開館記念講演会
森永卓郎氏講演会「モリタク流 女と男の経済学」…2
- 男女共同参画センター開館記念講座
「人生の棚卸しでより自分らしく生き活きと」……3
「国際社会の中で凛とした日本人の生き方」……3
- インタビュー「ワーク・ライフ・バランスについて」……3
- センター主催講座のご案内、インフォメーション……4

～支え合い 男女で織りなす 豊かな社会～
大分市企画部 文化国際課
男女共同参画センター

vol.35
2014.7

夫婦のこと
家庭のこと

仕事のこと
将来のこと

子育てに
関すること

対人関係
の悩み

女性のためのなんでも相談

火・木曜日 14時～20時
土曜日 10時～16時
祝日・年末年始を除く

相談専用電話 **097-574-5578**

女性の相談員が親身にお話を伺います。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

男女共同参画推進団体として登録しませんか？

男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画を推進する団体・グループの活動を支援するため、登録団体を募集しています。

登録団体
の特典

1 男女共同参画に関する研修、講座、イベントなどの情報提供が受けられます。

2 団体・グループ情報の発信を行います。(掲示物・チラシ・市ホームページ掲載等)

3 センター会議室を無料で利用できます。

※詳しくは下記センターまでお問い合わせください。

センター主催講座のご案内(8月～11月)

内容	講師
女性のためのエンパワーメント 10時～12時 8月19日(火) 私流・生き方キーワード 9月 9日(火) ストレスに負けない私をめざそう 10月2日(木) 人生100年時代のライフ・デザイン 11月6日(木) もっと自分らしく生きるために	募集締切 松木和美さん
パパと子どもの工作教室 8月24日(日) 10時～12時 10時15分～10時45分 講義(篠原) 10時～12時 工作(北村)	篠原文司さん 北村直登さん
働くことと私と未来 ～カラーセラピーをつかってポジティブな私になる～ 9月18日(木) 18時30分～20時30分	工藤マリさん
男女で学ぶ介護セミナー 10月18日(土) 10時～12時 13時30分～15時30分	佐藤ハツ子さん 黒田栄子さん
家庭の不和が子どもの成長に及ぼす影響 11月27日(木) 10時～12時	松木和美さん
女性のためのセルフディフェンス 11月29日(土) 10時～15時30分 10時～11時30分 母娘(おやこ) 小学3年生以下は不可 13時～15時30分 中学生以上の女性	福多唯さん

※各講座の詳細・募集については、市報・チラシでお知らせします。

インフォメーション

開館時間/9時～22時

〈事務室・交流スペース〉
月・水・金・土・日曜日 9時～17時
火・木曜日 9時～21時
〈会議室〉 9時～22時

休館日/第2月曜日

(国民の休日と重なった場合はその日以降の休日でない日)

年末年始(12月28日～1月3日)



大分市男女共同参画センター

〒870-0021 大分市府内町1丁目5番38号
コンバルホール2階

TEL 097-574-5577
FAX 097-537-3666
E-mail danjokyodo@city.oita.oita.jp

満員御礼

森永卓郎氏講演会

モリタク流 女と男の経済学 ～格差社会・不況に負けない幸せな生き方～

本当の男女共同参画のために

最初に少しショッキングな数字を2つお話ししたい。一つは、1986年に男女雇用機会均等法が施行されてから97年までの11年間で女性の正社員が150万人増えたのに、97年をピークに減り続け、昨年までに150万人減ってしまったという事。もう一つは、2010年の国勢調査で、30歳前半男性の非婚率が5割を超えたことだ。このおかしな事象は通底している。そこで、なぜこんなことが起きたのかを話していきたい。

男女雇用均等法以前の日本は、いまでは考えられないほど厳しい男女差別があった。それは、戦時人口政策から始まっている。昭和15年、近衛内閣は「人口政策確立要綱」を閣議決定した。富国強兵・殖産興業のために、出生数を大幅に増やそうとした。そのため、独身税や結婚給付金の制定などを進めるとともに、女性は20歳で



ただし、均等法施行直後は、男性の方にまだナイトの精神のようなものが残っていた。総合職と言っても女性なのだから、ひどい働き方はさせられないと思っていたのだ。そうした働き方の下で、女性総合職は急速に増えていった。しかし97年に日本がデフレ経済に突入すると環境がガラリと変わった。リストラで従業員が減るなかで、女性といえども深夜残業



2014年4月26日(土)にセンターオープン記念講演会を開催しました。おかげさまで、文化ホール(定員500名)は満員御礼！ユーモアたっぷりの森永氏の話に会場中が大爆笑にまつまれました。

業や休日出勤が強いられるようになってしまったのだ。その結果、多くの女性が耐えきれずに身を退いた。それが最近の女性正社員減少につながっている。ちなみに、男性も格差の状況は同じで、24時間操業を拒否した男たちは非正社員となり、そして結婚の機会を失った。

日本経済の長期的発展を考えても、そのことは間違っていない。日本が長時間労働による低労働コストを実現することで、発展途上国に打ち勝つことはできない。それよりも、途上国と競合しない高付加価値商品をつくっていく必要があるのだ。高付加価値商品は、アート作品だ。アートは、見る人の心をゆさぶるものだから、まず作り手自体がワクワク・ドキドキしている必要がある。そのため、男も女も適切なワーク・ライフ・バランスを実現することで、ワクワク・ドキドキしながら、生き生きと暮らせる社会をめざしていくべきだろう。

講演が終わって：スタッフ談話

スタッフA：講演内容を要約するとちょっと堅く感じるけど、会場は大爆笑にまつまっていたね！
スタッフB：知り合いが、笑いすぎて疲れたわっ！！
スタッフA：そう！日曜朝のあの番組の裏情報や、割烹着の由来とか…(笑)
スタッフB：そう言えばラテン化経済の話もおもしろかったよね！納得！！
スタッフA：みんなイタリヤ人になろう！
明るく！陽気に！アモレ！！

参加者の声

●笑って聞けて、とても楽しかった。ラテン化の主旨がわかった。楽しむことはすてきたと思う。日本の働き方が求められると思った。
●笑いも交えつつ、核心に迫り、数字もよく出てきて具体的だった。自分の職場を言われているようで、何か問題点が分かった気がした。
●今のライフスタイルが実は過去のいろいろな時代の政策によって作られていることを知った。

4月27日(日)に開催しました！ オープン記念講座 プチレポ



講師 宮崎 佐智子さん
(ライフスタイルコーディネーター ソートフル代表)

人生の棚卸しでより自分らしく生き活きと

モノ・空間など物理的な整理がこころの整理につながり、何歳からでもできる人生の棚卸方法を教えていただきました。なかでも、自分の利き脳チェックで自分のタイプにあった得意な整理方法には納得。また、エンディングシート(遺言とは一味違った、自分の思い出、年表、大切な方へのメッセージなど)を活用しながらセカンドライフの過ごし方をお話ししてくれました。

- 新しい目標、ゴールに向け、元気と自信がでた。
- 夫婦で参加し新しい共通の課題ができた。
- 片付けの新しい視点が持て、実践できるかもと自分に期待がもてた。
- 幅広い内容だったが、講師の素敵な人柄が伝わりすーっと入ってきた。



講師 佐藤 薫子さん
(国際マナー研究家、プロトコールジャパン(株)代表取締役)

国際社会の中で凛とした日本人の生き方

佐藤薫子さんが実際に海外で過ごした頃の経験談を交え、国際社会でのマナーや、その歴史、背景などを丁寧に教えてくれました。単に国際基準のマナーというだけでなく、日本人としての誇りを持った堂々とした振る舞いの重要性は、佐藤さんが体験したからこそその話の重みを感じました。また、握手や乾杯、ナプキンの使い方など身近なマナーの実践講義は受講した方々に大好評でした。

- 日本と外国のマナーの違いがわかり、今後自信をもって対応できると思う。
- 握手の仕方、社交会話の大切さ、すぐに使える実践など学べ大変勉強になった。
- 最高のプロトコールを教えて貰え、すばらしい機会に大変感謝。

ワーク・ライフ・バランスについて ～別府大学 佐藤敬子准教授に聞く～



今、「ワーク・ライフ・バランス」ということが盛んに言われていますが、先生がお考えになる「ワーク・ライフ・バランス」とはどのようなものでしょうか？

絵の具だけを先にぎゅうっと絞り出してしまふ。そのため、退職して一人になったとたんにも何もない自分に気づくのです。その時々ライフ・ステージにおける仕事や家庭、趣味の比重は人それぞれでいいんです。トータルで調和の取れた人生を送ることが大切ではないでしょうか。

そのために大切なこと、心がけておくべきことはどんなことでしょうか？

佐藤：今、行政もワーク・ライフ・バランスの取れた生活を社会全体で実現できるよう、さまざまな施策や制度を整えています。ただ、制度が先行して意識改革がまだまだ追いついていないのではないのでしょうか。

意識改革といっても堅苦しく考えることはありません。たとえば男は仕事、女は家事といった固定的役割分担がまだ意識の中に根付いているため、夫は妻の役割である「育児や家事を手伝う」と考えてしまふ。そうではなく、お互いに協力してするという「共同、協働」の意識を持つこと。また、退職された方なら自分がこれまでに培った経験や知恵で貢献できる場所を探すことや、新しい学習機会を模索することも大切なことだと思います。

人は自分が誰かの役に立っているということによって自分が存在することの価値、すなわち生きがいを感じます。個人個人がワーク・ライフ・バランスの取れた充実した生活を送ることが、多様な生き方を選択できる社会をつくることにつながるのではないのでしょうか。



けれど、まだまだ一般的に浸透していない。それはなぜかという、仕事と家庭のバランスを天秤にかけたように「半分ずつ」と捉えてしまうからではないでしょうか。「バランス」とは「調和」であると私は考えます。人はみなそれぞれに人生という白いキャンバスを持っていて、そこに絵を描くために何本かの絵の具を持っています。仕事という絵の具、家庭という絵の具、趣味という絵の具などです。絵の具の量はみな一緒。いろいろな絵の具をキャンバスの上で混ぜ合わせることで調和の取れた、自分らしい絵が描けるはずなのに、仕事なら仕事の